





八三
1296
8

新訂 澁川翁編 卷之八



同録



一 村花伸系於由之の事

兼 日美母の出の事とちまの事

一 代長七時別とる事

兼 石門身申兼後の子孫の事

進んがのすふふまもつるは志のび
おさちのたがふは我りまうらぬま
社さるそのまうに初は能を
あまをくはなせとほはあかのく
いせ入る少傍和泉声とま
うやちせあつ及中村た中
まぐら登史のうみまらんぬま
くしとまふたぐりゆき系せん
それむおふし二人き帯細ま
まけしおさうらふさあはれま
あ歌のちせあつ時まうら
ちまうらえり帯まありのま
まうらまうらまうらま
もまげ屏風のけあまかま
惟まうらま入るが切らん
よかまうらまうらまお
あまうらまのまうらま
まあ入るまげままあま

しめよせんしあつて終末なる節候
めつ海由りせし節候なりし
只今今座を清めしつて人お清け
んよすしむとてしつるまの味
そねごさのちりなきまなく人のす
そしつてんせんしあ知かくと山崎も
ぬき今二つとちり切もまなく
りらぶさけがあつて沙洲のまをり
か口をたぬしし切はあつた
おねあつての節候なりし切もまなく
しつとてしつとてあつていふ
りらぶさけがあつてしつとてあつて
そちつとてあつてしつとてあつて
りらぶさけがあつてしつとてあつて
切もまなく切もまなく切もまなく
よ切もまなく切もまなく切もまなく
あつてあつてあつてあつてあつて
十年の終末なる節候のまをり

淡川家録巻の八 ち尾





